

## 茅ヶ崎市立松浪中学校

研究テーマ：質の高い授業づくりを目指す校内研究

### 1 実践の目的

本校は、授業をはじめとする諸活動において「学びあい」から、学校教育目標「ふれあい 思いやり 正しい行動」のできる生徒の育成を目指している。授業力向上への取り組みを「生徒をよりよく育てる手立て」として位置づけ、チーム松浪として組織的に取り組んでいるのが本校の研究の特徴の1つだと捉えている。また、そのようにして積み重ねてきた校内研究の成果が、新しく本校に赴任したメンバーにも継承されるよう、教科指導のスタンダードである「松浪 Teaching Standard」を平成23年度からの校内研究で蓄積してきている。そして生徒の主体性にプライオリティを置いた「伝えあい 学びあう」授業づくりをしていくことが「生徒をよりよく育てる」ために必要だと考える。

### 2 実践の内容

#### (1) 松浪 Teaching Standard

生徒たちの学びの保障をするために、本校の教科指導のスタンダードである「単元指導案」と「学びのプラン」を基に、授業が行われている。「単元指導案」は教員が先の見通しを持って、単元計画における本時の授業の位置づけを意識できるように、「学びのプラン」は生徒が同じように見通しと振り返りができるように、と全職員が作成している。

#### (2) 校内研究の体制

年に3回実施している校内研究会では、

横浜国立大学名誉教授高木展郎先生を招聘し、授業づくりに関するアドバイス等をいただいている。また、それとは別に全ての教員が授業参観、及び協議を行う日(授業力向上 day)を3回設定している。今年度の日程は以下の通りである。

6/23 第1回授業研究会(学習指導講座)

7/14 第1回授業力向上 Day

10/19 第2回授業力向上 Day

11/14 第2回授業研究会

1/30 第3回授業力向上 Day

2/22 第3回授業研究会

研究組織においては、教科ごとに3つのグループに分け、それぞれのグループテーマを以下のように設定した。

第1グループ(数学・理科・音楽)

「主体的な学習をするための課題設定(工夫)」

第2グループ(社会・保健体育・技術家庭)

「単元の評価規準の設定と評価方法」

第3グループ(国語・英語・美術)

「思考をつなげる(主体的・対話的で深い学び)ための授業」

#### (3) 授業における取り組み

「伝え合い、学び合う」授業のために、授業の受け方スキル指導を行った。次の表は各教室に掲示してあるもので、特に7月までの期間はどの学年も聴くことのレベル1を徹底している。活動の際には、特に意識したい項目を具体的に示すことで、生徒がより主体的に取り組めるようにした。

聴くこと	目的	話すこと
話し手が 安心して話せる ように聴く。	レベル3 考えを深めあう	聴き手が 聴こうと思える ように話す。
自分の考えと 比較して 聴く。	レベル2 考える視点を増やす	聴き手に 影響を与える ように話す。
理解しよう として聴く。	レベル1 理解する	聴き手が 理解できる ように話す。

また、今何にどのように取り組む時間なのかをはっきりさせるために、全教科共通のピクチャーカードを用いて視覚化した。板書もなるべく統一できるように、授業の目的や流れを示すなどしている。



### 3 実践の成果

第1グループでは、生徒の主体的な学びを促すために「計画性」「授業の受け方」「考え方」「考えの深め方」等のいくつかの側面からアプローチをすることが有効なのではないかと考えた。これまでの実践では「考えの深め方」を意識した課題設定に偏りがあったので、今後は他の側面を踏まえた課題設定を行っていくことが必要である。

第2グループでは、二次元コードを読み取って関連動画などの視聴を可能にするなど、「学びのプラン」の改善を図った。生徒の技能面の向上は見られたが全ての単元で

取り入れるのは時間的に難しいといった課題も見られた。

第3グループではロイロノートを活用し、生徒同士の思考がつながりやすかった授業の内容を、各々が教師用の資料箱に保存し共有することで、多くの授業に還元できたことが成果としてあげられた。

No.	身につけたい資質・能力
1	□技術の見方・考え方を働かせて、身の回りの問題を発見し、それを解決する製品を考えることができる。 見【ワークシート】
2	□等角図のかき方身につけ、製作するものを正確に図に表すことができる。 知【設計図】
3	□ラック製作に必要な部品を表や図にまとめることができる。 知【ワークシート】

### 4 今後の展開

今年度の成果と課題については、次年度のグループ研究に活かしていきたい。また、「松浪 Teaching Standard」の軸となっている「単元指導案」と「学びのプラン」の更新やスキル指導の充実を図るため、新たなスキル指導の効果的な方法についても授業を通して検討していきたい。タブレット端末用のピクチャーカードの作成なども行ったので、タブレット端末の実践例を積み重ねることで、より効果的な方法についても協議をしていきたい。

更に、学区内の小学校の学習指導講座などに参加し、小学校での取り組みや児童の実態把握に努め、小中の学びの接続を重視し、積極的に取り入れていくことで、質の高い授業づくりが実現していくと考えている。